

## 研究課題名「核医学画像を用いた骨転移の治療効果予測に関する基礎的検討」に関する情報公開

### 1. 研究の対象

2008年4月1日～2020年8月18日に名古屋大学医学部附属病院で骨転移の検索を目的として骨シンチグラフィ、 $^{18}\text{F}$ -fluoride PET/CT検査、 $^{18}\text{F}$ -FDG PET/CT検査を受けられた方

### 2. 研究目的・方法・研究期間

現在、骨転移の画像診断を目的として $^{99\text{m}}\text{Tc}$ -hydroxymethylene diphosphonate (HMDP)、 $^{99\text{m}}\text{Tc}$ -methylene diphosphonate (MDP)を用いた骨シンチグラフィ、 $^{18}\text{F}$ -fluorodeoxyglucose (FDG) PET/CT検査、 $^{18}\text{F}$ -fluoride PET/CT検査が行われています。

癌治療の進歩に伴い、長期生存が見込まれる患者が増加し、治療期間の生活の質を向上させるためにも骨転移の治療の重要性は高まっています。骨転移の治療効果に関わる因子を特定できれば、治療法の選択、治療開始のタイミング等、治療方針を決める一助となると考えられます。

そこで本研究の目的は、骨転移の治療効果に影響を与える因子を検討することです。

画像解析ソフトウェア GI-BONE、GI-PET (AZE)用いて集積量の評価指標である standardized uptake value (SUV)、metabolic tumor volume (MTV)、total lesion glycolysis (TLG)を測定します。治療効果は全生存期間・患者の痛みの有無・腫瘍マーカ・骨代謝マーカ等から判断し、骨転移の数・腫瘍の大きさ・SUV・MTV・TLG等、治療効果に影響を与える可能性のある因子と治療効果の関係を分析します。

研究期間は、倫理委員会承認日から2021年3月31日までです。

### 3. 研究に用いる試料・情報の種類

試料：PET/CT画像、SPECT画像等

情報：全生存期間、患者の痛みの有無、腫瘍マーカ、骨代謝マーカ、骨転移の数、腫瘍の大きさ等

### 4. 個人情報の保護

被験者の画像データや電子カルテから得た臨床情報は氏名等の個人情報を削り、代わりにその人と関わりのない符号又は番号を付し匿名化を行います。ただし、本研究の被験者となることを希望しない申し出があり被験者から除外する際など、必要な場合に個人を識別できるように、その人と新たに付された符号又は番号の対応表を残し連結可能匿名化を行います。画像データ及び電子カルテから得た臨床情報は情報管理

責任者（山口博司助教）の下で、名古屋大学医学部附属病院アイソトープPET検査室内に設置されたパスワードで保護されたPCおよび鍵付きロッカーで厳重に保管します。使用した対応表や患者情報は10年間保存し、その後廃棄します。

#### 5. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

研究責任者 名古屋大学医学部保健学科放射線技術科学専攻

教授 加藤克彦

(電話：052-719-1504、FAX：052-719-1589)

苦情の受付先

名古屋大学医学部保健学科総務係

(電話：052-719-1504)